

(5) 真和志地域 まちづくり方針



位置と地勢

本地域は、本市の南東部に位置しており、豊見城市と南風原町に接しています。地域の南側を流れる国場川の周辺は平地ですが、他の部分はほとんどが起伏にとんだ丘陵になっているほか、地域の東半分は高台となっています。繁多川や識名など高台周辺の斜面には豊かな緑地が残されており、安里川と国場川の2つの水系が地域を東から西へ流下しています。

成り立ち

本地域は、首里の南側に位置し、琉球王国とのつながりが多く残る地域です。琉球王国時代には、繁多川、識名、国場、上間などの集落が形成されており、16世紀頃には、軍道である真珠道が整備されました。首里城から金城町を通り、識名坂、真玉橋、豊見城城、小禄を抜け、屋良座森城（現、那覇軍港内）までの全長約8kmの石畳道とされています。また、王国の発展とともに中国との交易が盛んに行われるようになり、中国皇帝からの使者（冊封使）をもてなす識名園が1799年に造園されました。

国場川や真嘉比川に囲まれ肥沃な土壌を有していたため、戦前までは、農地が広がる地域でした。戦後、政府道安里古波蔵線（現在の国道330号）沿道にあり、交通の便が良かった栄町は商業地として整備され、公設市場が開設しました。これが、現在の栄町市場の前身となります。

1956（昭和31）年、那覇市最初の都市計画公園のひとつである与儀公園が都市計画に定められました。また、戦災復興土地区画整理事業の実施にともない、那覇西地域の1,700基余りの墳墓の移転先として、識名霊園が設置されました。1957（昭和32）年、真和志市は那覇市と合併し急激に市街地が広がって行きます。図書館、公民館などが整備されたほか、返還軍用地の跡地利用も進められ、1973（昭和48）年から与儀ガソリンタンクの跡地利用として与儀土地区画整理事業が実施され、良好な住宅地が形成されました。

近年は、災害拠点病院でもある沖縄赤十字病院が与儀に開院し、廃川敷を活用した国場川くねくね公園や、人材育成機能・コミュニティ機能・ライブラリー機能を備えた那覇市人材育成支援センターまーいまーい Nahaなどが整備されました。また、都市の骨格となる国道329号（那覇東バイパス）や識名トンネルを有する真地久茂地線（県道222号線）などの道路整備も進められましたが、地理的な条件などから公共交通の空白地が残り、新しい公共交通の導入も検討されています。

地域 的特性

① 世界遺産識名園があります

本地域の東側には、琉球王国時代の王家の別邸であり、迎賓館としての役割も担っていた世界遺産の識名園があります。識名園は識名公園内に位置し、公園とともに、豊かな自然環境が残されています。

また、識名、上間、国場には、良好な形態を残す旧集落があり、その保全が望まれています。



▲ 世界遺産識名園

② 起伏に富んだ地形と豊かな自然環境を有しています

本地域の北側には、識名、繁多川の丘陵や斜面に残る豊かな緑地、金城ダムや安里川の水辺空間があります。また、地域南側は、低地部分を国場川が流れ、ラムサール条約登録湿地である漫湖があります。那覇市民体育館のある識名公園では、地形を活かした整備が進められています。



▲ 漫湖の湿地帯

③ 公共交通の新たな展開が検討されています

本地域は、戦後、道路などの基盤が整わないまま市街化が進み、起伏に富んだ地形もあり、公共交通の不便な地域もあります。このようなことから、乗合タクシーが運行し、新しい公共交通の導入などの公共交通に関する新たな展開が検討されており、大勢の人が暮らす本地域が、より魅力的な地域へ飛躍することが期待されています。

ワークショップなどからの市民のみなさんの声



もっと地域の祭りやイベントがあるといいな…でも、コミュニティ活動の場が公民館しかないんだよな。



コミュニティセンターがあるといいわね。図書館や児童館、生涯学習センターみたいなものがあると嬉しい。



地域の中心は真和志支所。支所に様々な機能を集約させると便利だろうね。



高齢化が進んできて、空家や空き地も出てきているね。多世代同居やシェアハウス、レンタル畑などうまく活用できればいいな。

空家、空き店舗、空き地など地域の隠れ資源をうまく活用することもコミュニティの場づくりにつながるかもしれませんね。



車が無くても生活できるようにならないかね？路線バスやコミュニティバスを通して便利になるといいねえ。



高齢者や目の不自由な方も安心して歩ける歩道づくりをしてほしい。

真和志地域は、公共交通が不便な地域があったり、歩道の整備が十分ではない路線も残っています。公共交通の利便性を高める取り組みや歩行者の安全を確保する取り組みを進めていきたいと思います。



国場川が親水公園になると素敵。



川沿いに桜を植えて、さくらまつりがしたい！

さくらまつりですか、夢が膨らみますね～。地域内の河川はきれいにしていくとともに、親水性のある水辺空間創出を目指していきます。



地域の将来像

公共交通の利便性の向上や新しい公共交通システムの導入を推進するとともに、歩行者・自転車の利用環境の整備を進めます。識名公園や漫湖公園などの貴重な緑や水辺、花木など、自然環境の保全と活用により、憩いとうるおいの空間形成を図ります。また、識名園の歴史を核とした歴史・文化遺産を活かしたまちづくりを進めます。新しい公共交通と連携した身近な生活サービス施設が集積・充実する地域拠点の形成を図り、魅力的な沿道の土地利用を推進することにより、中心拠点から連続する快適で緑豊かな住宅地の形成を進めます。



公共交通・道路		交流スポット	
	モノレール		広域的な幹線道路 (計画、構想道路)
	公共交通軸		地域の幹線道路 (計画、構想道路)
	鉄軌道を含む新たな公共交通システム		主要な生活サービス道路
	LRTなどの基幹的公共交通システム		シンボルロード
	交通結節点		地域の顔となる道路
			歴史文化スポット
			自然・レクリエーションスポット
			コミュニティスポット
			商業交流スポット ・広域的な商業機能 ・駅周辺の商業機能 ・徒歩圏の生活サービス機能
			交通交流スポット
		その他	
			都市公園・緑地
			海・河川

※凡例は各地域共通

4章 地域まちづくり方針

地域の土地利用の方針

- 地域東部での緑豊かな住宅地の形成
- モノレール安里駅周辺の商業環境の更新
- 公共交通の整備と連携した地域拠点の形成

低層住宅地区

真地、上間、仲井真、国場などは、低層の戸建て住宅を主体とし、低層住宅地の住環境に調和した共同住宅が立地する、緑豊かな住宅地の形成を進めます。また、識名、上間、国場の旧集落は、敷地内の樹木や石積み、道路の形態などの昔ながらの良好な集落環境を保全しながら、緑豊かな低層の戸建て住宅を主体とした低密度の住宅地の形成を図ります。

低中層住宅地区

三原、寄宮、与儀などは、低層の戸建て住宅と調和した低中層の共同住宅が共存する良好な住宅地の形成を進めます。また、国場の旧集落は、道路形態などの昔ながらの良好な集落環境の保全を図ります。

中高層住宅地区

古波蔵3・4丁目は、リバーサイドの眺望を生かした中高層建築物を中心とした住宅地の形成を進めます。

住宅団地地区

地区計画制度などを活用し、緑化やオープンスペースの確保などにより、周辺の住宅地と調和した良好な住宅団地の形成を進めます。

地域型生活サービス地区

寄宮、長田、古波蔵の商店街は、日常の生活を支える店舗などが立地する土地利用を図ります。

商業サービス地区

栄町商店街は、地域の個性を活かした空き店舗の利用やリノベーションなどにより、地域に暮らす人だけではなく、観光で訪れる人にとっても魅力的な、界隈性のある商業サービス地区の形成を図ります。

地域内幹線沿道地区

三原識名線や与儀国場北線などの沿道は、暮らしの利便性を高める商業機能や業務機能と低中層の共同住宅などが共存する複合用途の建物が立地する土地利用を進めます。

幹線沿道地区

国道330号、国道507号、真地久茂地線（県道222号線）などの沿道は、低層部の住宅利用が抑制された沿道型の商業施設や業務施設、中高層の共同住宅などが立地する土地利用を進めます。

■地域拠点としての都市機能の誘導

寄宮交差点周辺では、生活利便性を高める、日常的な買い物、診療所、郵便局など、日常の生活を支えるサービス機能やコミュニティ活動につながる機能などの集積・充実により、地域の暮らしを支える拠点を形成し、居住環境の維持・向上を図ります。

地域の土地利用方針図



土地利用

- | | | | |
|---------|-------------|-----------|---------|
| 低層住宅地区 | 地域型生活サービス地区 | 都市型リゾート地区 | 集落環境保全 |
| 低中層住宅地区 | 近隣型商業サービス地区 | 流通・産業地区 | 都市公園等 |
| 中高層住宅地区 | 商業サービス地区 | 地域内幹線沿道地区 | 学校等(白枠) |
| 住宅団地地区 | 業務地区 | 幹線沿道地区 | モノレール |

※凡例は各地域共通

4章 地域まちづくり方針

地域の交通体系の方針

- 広域的な幹線道路の整備などによる地区内の主要幹線道路の再編整備
- 住宅地内における安全安心で快適な交通環境の創出
- まちづくりと一体となった LRT などの基幹的公共交通システムの導入
- 交通結節点を中心とした公共交通、歩行者、自転車利用環境の整備
- 鉄軌道を含む新たな公共交通システム導入との連携

■誰もが移動しやすい公共交通ネットワークの体系方針

本地域は、起伏に富んだ地形により公共交通が不便な地域が多くあります。寄宮、真玉橋から中心拠点へ接続する LRT などの基幹的公共交通システムの整備推進を図ります。

■路線ごとの道路体系方針①

	路線名および路線位置	体系方針
広域的な幹線道路	・ 国道 330 号	那覇市を南北に縦断する広域幹線道路としての機能を担うだけでなく、歩行者に配慮した道路空間の創出を促進します。
	・ 第 2 環状線（県道 82 号線）	那覇市の骨格をなす広域幹線道路であり、今後も機能の拡充や、快適な歩行空間を創出するとともに沿道の環境整備を促進します。
	・ 国道 329（南風原バイパス）	国道 507 号（旧国道 329 号）に代わる広域的な幹線道路として位置づけ、早期整備を促進します。
	・ 県道 222 号線（真地久茂地線）	那覇市の東西を結ぶ広域幹線道路であり、早期整備を促進します。（一部は LRT などの基幹的公共交通システムの導入ルート）
	・ 那覇インターアクセス道路	都心部と那覇インターチェンジを連結する幹線道路として位置づけ、早期整備を促進する。整備にあたっては、周辺の居住環境や景観に十分配慮した整備を促進します。
	・ 国場中央線（真和志中央線の一部）	南北方向の大量交通の処理道路および国道 330 号を補完する幹線道路として位置づけ、街路緑化などを含めた整備を図ります。（LRT などの基幹的公共交通システムの導入ルート）
地域の幹線道路	・ 国道 507 号（旧国道 329 号）	公共交通、歩行者、自転車の利用環境を確保するため、通過交通を抑制し、道路空間の再配分を促進します。
	・ 真和志線（繁多川松川線）	地域の南北方向の交通を処理するとともに、学校周辺の道路となっていることから、地域の主要な幹線道路として位置づけ、街路緑化や自転車道などを含めた整備を図ります。
	・ 真和志中央線（国場中央線、県道 46 号線、松川三原線）	地域を南北に縦断する、地域の顔となる幹線道路で、徒歩、自転車利用環境の向上や、公共交通の利用環境の向上を図ります。
	・ ひめゆり三原線および延伸する道路 ・ 古波蔵上線（古波蔵中央線）	広域幹線道路を補完し、地域内の道路網を再編する地域幹線道路として位置づけ、徒歩、自転車利用環境の向上および周辺の居住環境に配慮した整備を図ります。

■路線ごとの道路体系方針②

	路線名および路線位置	体系方針
主要な生活サービス道路	・ 大道北線	字大道の住宅地の主要な生活道路となっており、通過交通を抑制し、歩行者の安全性、快適性に配慮した道路整備を図ります。
	・ 県道 46 号線 ・ 安里松川線 ・ 壺屋三原北線 ・ 壺屋三原南線 ・ 松川中央線 ・ 三原 14 号 ・ 三原中央線 ・ 三原大道線など	三原 1 丁目、壺屋 2 丁目、松川 2 丁目などの住宅地をつなぐ主要な生活道路であり、真和志中学校、大道小学校、松川小学校の周辺道路となっていることから、通過交通を抑制し、歩行者の安全性、快適性に配慮した道路整備を図ります。
	・ 与儀 30 号 ・ 寄宮 52 号 ・ 寄宮 53 号 ・ 寄宮中央線 ・ 与儀 32 号 ・ 国場 1 号など	与儀公園、中央公民館などの公共施設および寄宮 1、2 丁目、字与儀、与儀 1 丁目の住宅地をつなぐ主要な生活サービス道路となっており、通過交通を抑制し、歩行者の安全性、快適性に配慮した道路整備を図ります。
	・ 与儀 1 号 ・ 与儀国場南線など	字国場の土地区画整理区域の住宅地をつなぐ主要な生活サービス道路であり、古蔵小学校の周辺の道路となっていることから、通過交通を抑制し、歩行者の安全性、利便性を重視した道路整備を図ります。
	・ 古波蔵 38 号 ・ 古波蔵 1 号 ・ 漫湖公園沿線 ・ 古波蔵 2 号 など	漫湖公園へのアクセス、古波蔵 3、4 丁目の住宅地をつなぐ主要な生活サービス道路であり、古蔵中学校の周辺道路となっていることから、通過交通を抑制し、歩行者の安全性、快適性に配慮した道路整備を図ります。
	・ 松川 16 号 ・ 松城中学校東側線 ・ 松川繁多川線 ・ 繁多川中央線 ・ 繁多川 8 号 など	松川団地および松川 3 丁目、繁多川 1～4 丁目の住宅地をつなぐ主要な生活道路であり、沖縄工業高校、松城中学校の周辺道路となっていることから、通過交通を抑制し、歩行者の安全性、快適性に配慮した道路整備を図ります。
	・ 識名三原線 ・ 識名中央線 ・ 識名 20 号 など	大石公園へのアクセス、寄宮 3 丁目、三原 3 丁目、繁多川 5 丁目、識名 1～4 丁目などの住宅地をつなぐ主要な生活道路であり、識名小学校、石田中学校、真和志小学校の周辺道路となっていることから、通過交通を抑制し、歩行者の安全性、快適性に配慮した道路整備を図ります。
	・ 長田中央線	沿道には商店街が形成されており、通過交通を抑制し、歩行者の安全性、快適性に配慮した道路整備を図ります。
	・ 県道 46 号線 ・ 上間識名線 など	沖縄大学、沖縄尚学高校、寄宮中学校および長田 1、2 丁目、字上間、上間 1 丁目、字国場、字仲井真などの住宅地をつなぐ生活道路および学校周辺の道路となっていることから、通過交通を抑制し、歩行者の安全性、快適性に配慮した道路整備を図ります。
	・ 識名 29 号 ・ 三原識名線 ・ 識名兼城線 ・ 真地 7 号 ・ 上間 8 号 など	真和志高校、南風原高校、真地小学校および字真地の住宅地をつなぐ道路となっていることから、通過交通を抑制し、歩行者の安全性、快適性に配慮した道路整備を図ります。

地域の交通体系方針図



公共交通	道路	交通結節点
モノレール	広域的な幹線道路	交通拠点
将来公共交通ネットワーク	地域の幹線道路	パーク&ライド
公共交通軸	主要な生活サービス道路	ライド&ライド
鉄軌道を含む 新たな公共交通システム	計画・構想道路	
LRTなどの 基幹的公共交通システム	トランジットモール	
	歩行者優先ゾーン	
	歩行者優先道路	
	シンボルロード	
	地域の顔となる道路	

※凡例は各地域共通

4章 地域まちづくり方針



NAHAのまちスナップ

～道路編～



1.国道 58 号

2.国道 330 号

3.真地久茂地線

4.臨港道路

5. 天久安里線

安全安心な地域形成の方針

- 良好な集落形態の保全
- 建替えにあわせた狭隘道路の解消による安全で良好な住宅地の形成

集落形態保全地区

識名、上間、国場の旧集落は、昔ながらの道路形態や石垣、フクギなどの屋敷囲い、古木などの歴史的な要素を活かし、特色ある集落形態の保全・再生を図ります。

基盤整備済地区

与儀、長田、古波蔵3丁目は、地区計画や建築協定、緑化協定などにより、建物用途の混在抑制や緑化の推進、街並み景観の形成などの良好な居住環境の維持・向上を図ります。また、寄宮土地区画整理事業区域内の中通りは、地域の身近な生活サービス地区として、商店街としての街並みを整え、ゆとりある歩行空間を確保するなどの良好な商業環境の創出を図ります。

基盤改善地区(機能向上型)

狭隘道路の解消やネットワークを構成する主要な生活サービス道路の改良、老朽建築物の共同建替えなどにより基盤の改善を図ります。

基盤改善地区(面的改良型)

密集市街地を形成し、無接道宅地が一定程度連担した個別改善が困難な地区や消防活動困難区域で防災上の課題がある地区では、民間事業者の参画などによる建築物の共同建替えなどを推進し、地域住民との協働による市街地の改善を図ります。

防災まちづくり

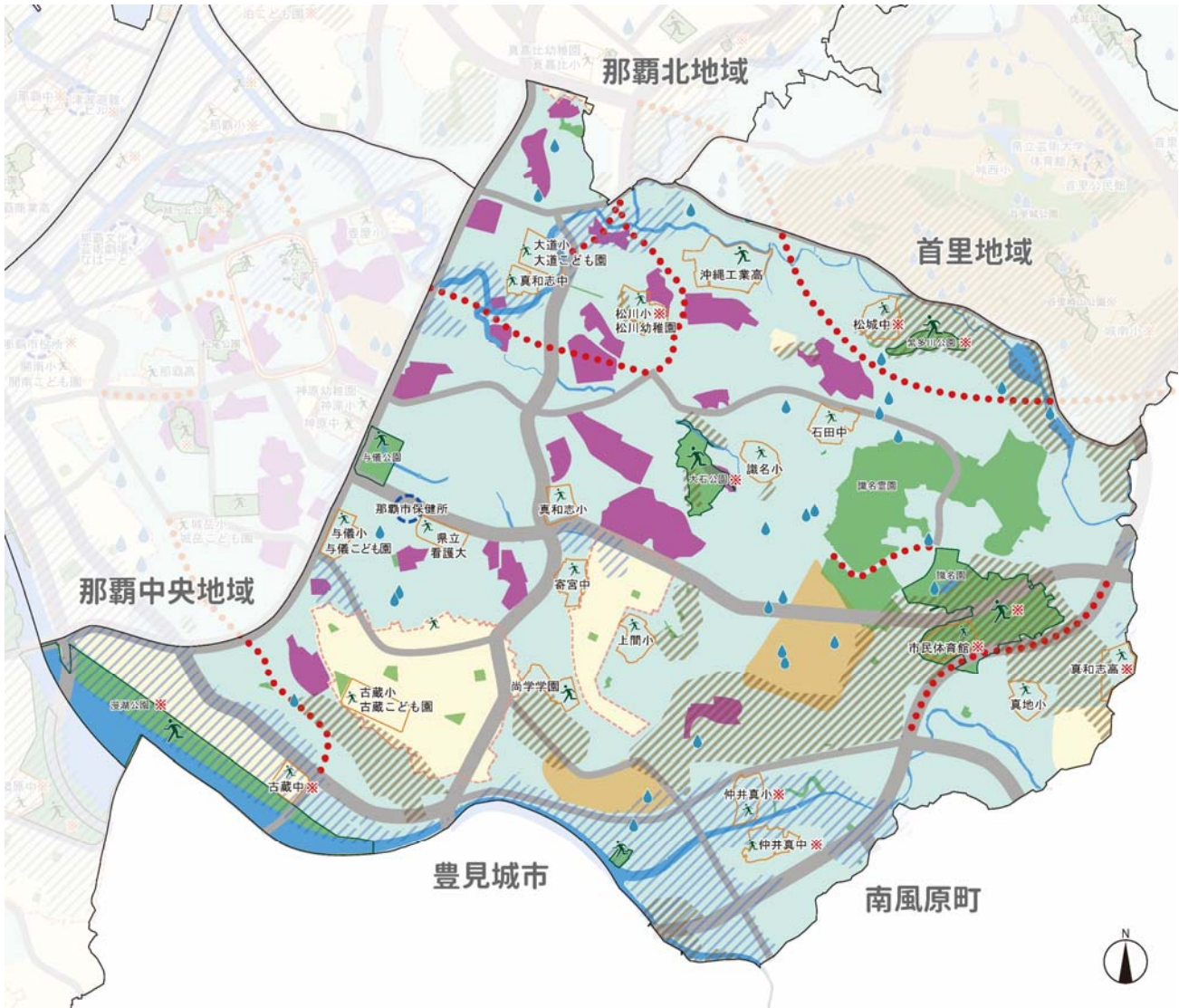
識名園や栄町市場などの観光スポットは、多くの観光客が訪れるため、災害時に観光客がスムーズに避難できるよう、地域住民や事業者の協力により、安全に避難できる仕組みづくりを進めます。

集中豪雨による浸水リスクのある国場川周辺では、主要河川の治水機能の向上のほか、道路や敷地内の浸透機能の強化、緑化などを進め、総合的な治水対策を図ります。また、高潮・津波の浸水リスクのある古波蔵、土砂災害リスクのある真地、識名などでは、災害リスクおよび被害軽減に向けた意識啓発を進めます。

避難場所・避難所・樋川・井泉

公園などの避難場所や小中学校などの避難所は、多様な使われ方が可能なオープンスペースの確保、耐震化やバリアフリー化を図ります。また、地域の湧水は、災害時に上水道が使えなくなった場合の飲料以外の生活に必要な水を確保するため、状況把握や保全などの取り組みを進めます。

安全安心な地域形成方針図



市街地形成	防災	その他
集落形態保全地区	浸水リスクのあるエリア	公園・緑地
基盤整備済地区	土砂災害リスクのあるエリア	海・河川
基盤改善地区 (機能向上型)	地域の避難場所 ※	幹線道路
基盤改善地区 (面的改良型)	地域の避難所 ※	計画・構想道路
基盤改善地区 (基盤再生型)	台風・大雨洪水時の避難施設	市街地開発 事業区域
マチグワエリア	地域の樋川・井泉	

※凡例は各地域共通

※ 避難場所・避難所について…浸水リスクのあるエリアでは、津波・高潮・洪水時を除く。土砂災害リスクのあるエリアでは、土砂災害時を除く。

暮らしと交流の方針

- 識名園の歴史を核とした歴史・文化遺産を活かしたまちづくり
- 歴史的集落景観の保全と再生
- ハンタからの眺望景観の確保
- 漫湖・国場川などの親水化・自然化による、水と緑を感じるまちづくり

公園・広場・緑・水辺

公園のアプローチ路の改善を図り、既存の緑地や地形などの自然的な特徴を活かしたうおいの場の創出を進めます。また、身近な公園が少ない地域では、旧河川敷や空地などを活用した小公園や広場、ポケットパークなどによる憩いの空間の創出を図ります。

緑やレクリエーションなどの拠点となる漫湖公園、与儀公園、識名公園などは、柔軟な管理・運営により、市民により一層親しまれる公園を目指します。識名公園では、パークゴルフ場やテニスコートなどの整備により、スポーツレクリエーション機能の向上を図ります。また、公園のリニューアル時には、地域の特性や自然環境にあった魅力ある公園整備を進めます。漫湖・国場川周辺については、都市の貴重な水辺空間として、水と緑のプロムナード景観の創出を図ります。識名霊園は、未整備区域の改善を図るとともに、周辺環境に配慮した整備を推進します。

国場川やガープ川などは水辺の軸として、水質浄化とあわせた自然化・親水化や緑化を進め、生物にやさしく、訪れる人が水辺を身近に感じることのできる親水プロムナードの創出を促進します。豊かな湧き水によって育まれたハンタガー、石田ガーなどの地域に残る数多くの水辺空間は、都市における貴重な自然環境として水源を維持するため、水辺周辺の緑地の保全を促進します。

幹線道路や主要な生活サービス道路などは積極的に緑化を進め、水辺と緑をつなぐ市街地の緑の軸として、生物の移動空間のネットワーク化やうおいのある歩行空間の創出を図り、識名の歴史的環境を演出する緑の軸の形成を推進します。

景観・眺望

上間、識名、国場は、拝所や井泉などが残り、南入りの住居配置や区画割りなど、昔ながらの集落景観を有しており、これらの景観の保全と再生を図ります。また、識名園周辺は、世界遺産の緩衝地帯としての景観形成を図ります。

国場川の水辺景観は、東シナ海に向かって広がる川幅と湿地帯、沿道の高層建築物が織りなすリバーフロントの景観が形成されており、河川や湿地帯などの自然環境を保全するとともに、水辺に意識を向けた景観形成を誘導します。

国場中央線や長田中央線などは、街路樹による連続した緑陰の創出や特色ある整備を図り、屋外広告物や公共サインのデザイン誘導などにより、地域の顔となる景観形成を図ります。

導入が検討されている新しい公共交通などは、車両や駅舎などの各施設を含め、良好なデザインとなるような景観形成を図ります。

ハンタや大石公園では、南部方面や市街地を見渡すことのできる眺望点の確保を図ります。

歴史・文化遺産・歴史の散策路

識名園をはじめとした指定文化財や、ハンタガー、グムイ、シイマノ嶽などの地域に残る歴史・文化遺産は、まちづくりへの要素として保全・活用を進め、歴史の散策路と一体となった歴史・文化とふれあう場の創出により、地域に暮らす人が身近なまちの良さや歴史を再発見できる仕掛けづくりを図ります。また、景観資源として指定されている上間のフクギ、上間のハンタ^グ小（琉球松）や知事公舎のデイゴ並木などの地域に残る古木・大木は、市街地にうるおいを与えると同時に、地域の歴史を継承する貴重な資源として積極的に保全を図ります。

交流スポット

琉球王国時代の国賓を歓待した識名園や、首里から識名を經由して西海岸にまで至る真珠道などの歴史的背景を活かした周遊ルートの展開や、歴史の散策路、点在する歴史・文化遺産の保全・活用、良好な景観の誘導などにより、首里と一体的なエリアとしての歴史・文化のまちづくりを図ります。

繁多川の豆腐づくりなどは地域文化のひとつとなっており、地域に息づくものづくりの継承につながるまちづくりに取り組み、交流の促進を図ります。

桜祭りの行われる与儀公園や漫湖公園は、自然・レクリエーションの拠点に加え、観光・交流の拠点として魅力的な公園づくりを図ります。

栄町市場は、広域的な商業機能を有する交流スポットとして、昔ながらの市場の雰囲気やスーヅグワの界隈性など独特の雰囲気を活かした商業空間を創出し、マチグワの歴史や文化が薫る活気ある観光・交流の拠点としての整備を推進します。寄宮、長田、古波蔵の商店街は、徒歩圏の生活サービス機能を有する交流スポットとして、空き店舗の様々な利用により、身近な買い物や地域のサードプレイスとしての機能の創出を図ります。

既存の公民館・図書館の活用により、まちづくりなどのコミュニティ活動を促進するとともに、小中学校などの公共施設は、コミュニティの拠点として積極的に開放を進めます。また、施設のリニューアルなどの際には、利用しやすい機能配置や施設整備を図ります。

真和志支所の建替えにあたっては、既存の公共施設を集約し、多様な機能を複合化した地域のコミュニティの拠点となる施設整備を図ります。

暮らしと交流方針図



緑・水辺	歴史・景観	交流スポット
公園・緑地	歴史・文化遺産 (馬場道跡などの場合)	歴史文化 スポット
自然緑地	集落景観	自然・ レクリエーション スポット
緑の軸	都市景観形成地域	コミュニティ スポット
水辺の軸 (河川・海)	景観資源	商業交流 スポット ・広域的な商業機能 ・駅周辺の商業機能 ・徒歩圏の生活サービス機能
公園空白地域	シンボルロード	交通交流 スポット
	地域の顔となる道路	
	歴史の散策路	
	眺望	

※凡例は各地域共通



NAHAのまちスナップ

～みどりと建築物編～



1



2



3



4



5

1.那覇市役所

2.緑ヶ丘公園エントランススペースとトイレ

3.アルモントホテルの公開空地

4.5.クニンダテラス